



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 253

2017/12/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

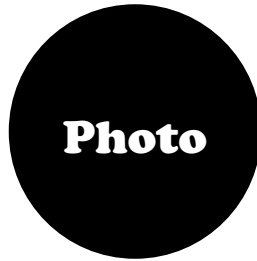
GREEN COLUMN

01. 絵画の魅力

02. みどり3遺跡と北筒式土器



今月の一枚



「タヌキがこっちに近づいてきた！」

表紙写真・文／鬼丸和幸

晩秋の快晴に恵まれた日、美幌温水ため池の周囲を歩いていました。見事な紅葉と、おびただしい数のトンボの姿に、しばし見入っていると、向こうからエゾタヌキが、こちらを目がけて一直線に歩いてきました。

どうやら、私の存在に気づいていないよう。2メートル先まで来た時、ようやく目と目が合い、一瞬見つめ合った後、びっくりしたように急いで反転するや、森の中に消えて行きました。驚かせてゴメン！

Event. 今月のイベント

企画展「おひろめコレクション展」 12月9日(土)～1月21日(日)

プチ工房「フェルトボールのミニリース」 12月20日(水), 22日(金)

博物館講座(歴史編)「アイヌ文化を体験! トンコリを弾いてみよう」 12月10日(日)

Information. 参加者募集

プチ工房 「フェルトボールのミニリース」

● 12/20(水), 22(金) 10:00-12:00, 14:00-16:00 自由に入室。作品ができたら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費(300円) ●城坂結実(美幌博物館) ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

プチ工房 「紙すきを楽しもう」

● 1/10(水), 12(金) 10:00-12:00, 14:00-16:00 自由に入室。作品ができたら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費(100円), 牛乳等の飲料紙パックやカラー広告チラシがあれば ●鬼丸和幸(美幌博物館) ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

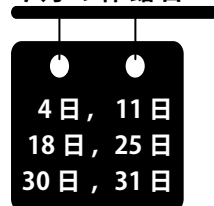
嘱託学芸員(美術担当) 募集

美術分野を専門に担当する嘱託学芸員を募集しています。

申し込みは12月22日(金)まで。試験日は平成30年1月18日(木)です。

詳細は、美幌博物館ホームページでご確認ください。

今月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN

グリーンコラム

絵画の 魅力

絵／岸本裕躬・文／鬼丸和幸



岸^{ひろみ}本裕躬氏（1937年～2011年）は、美幌町にゆかりのある画家の1人です。少年期を美幌町で過ごし、全道美術協会賞や札幌芸術賞を受賞するなど、優れた作品を、数多く世に残しています。

写真の「菌類湿原」（2003年）は、秋日の林に暮らすキノコ類をモチーフに描かれた油彩絵画です。岸本氏の作風として「物の両面を表現する」「対象に自分を移入させ、そこから見える世界を表現する」ことなどが挙げられます。

この「菌類湿原」をよく見てみると、描かれているキノコの下には、おびただしいばかりの、植物や昆虫といった生きものの死骸が描かれていることがわかります。キノコが生える森には、無数の生きものたちの姿があり、これらが死んだ後、キノコを含む分解者（生きものの死骸や排出物を分解する生き

もの）が、死骸を土に還し、その栄養を再び植物が利用するという生態系が成り立っています。

岸本氏は、生態系の中でキノコが大切な役割を担っていること、森は無数の分解された生きものの死骸の上に成立しているものであることを、暗に表現しようとしたのではないかと考えられます。

画家でありながら、自然科学者のように自然の摂理を理解して、客観的に表現しようとした氏の姿勢に、深く興味を覚えてしまいます。

02 GREEN COLUMN

グリーンコラム

みどり3遺跡と ほくとうしき 北筒式土器

写真・文／八重柏誠



美幌町には、2017年11月現在、133カ所の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が登録されており、その数は年々増加しています。今回は、そのうちの1つ、みどり3遺跡について紹介したいと思います。

みどり3遺跡は、美幌町市街地から北西に1.5kmほどの、網走川と木禽川に挟まれた緩斜面上に立地しています。昭和63（1988）年の発掘調査では、忍路子型細石刃核を中心とした旧石器時代の石器と、縄文時代中期末～後期初頭の土器や石器、縦穴式住居跡と見られる遺構などが見つかりました。遺跡からは、縄文土器の破片が5,673点出土し、それらを接合したことによって、17個体の土器が復元できました（写真）。

出土した土器の大半は、北筒式土器と呼ばれる、筒型で厚手の土器でした。北筒式土器は、作られた時期によって、

粘土に植物の繊維を練り込んだものや多量の砂を練り込んだもの、土器の口縁部に突起が付くものや平縁のものなど、特徴の違いが見られます。出土した土器は、どれも似たような土器に見えますが、よく観察すると細かな違いがあることがわかります。

みどり3遺跡では、北筒式土器の中でも、古く位置づけられるものから、やや新しく位置づけられるものまで出土しています。このことは、この遺跡に一定期間、例えば数十年もしくは百数十年の間、縄文人の集団が連続して生活していたことを示しているのかもしれない。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

【お知らせ】

年末年始の休館日は、12/30 ～ 1/6 です。

それに伴い、グリーンレター 1 月号は休刊となります。

みなさまよい年末年始をお過ごしください。

学芸員のつぶやき



先日、雪がちらつく中で遺跡の試掘調査を行ないました。美幌町 134 番目の新しい遺跡として、登録する予定です。本格的に雪が積もるまでは、この調査は続きます。今年はいつまで続けることができるのやら。(八重柏)